



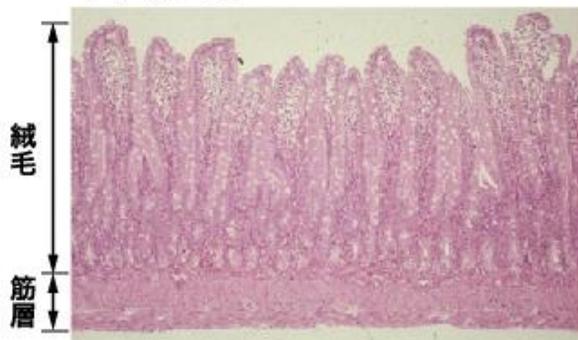
早期経腸栄養のススメ

◆経腸栄養法の利点

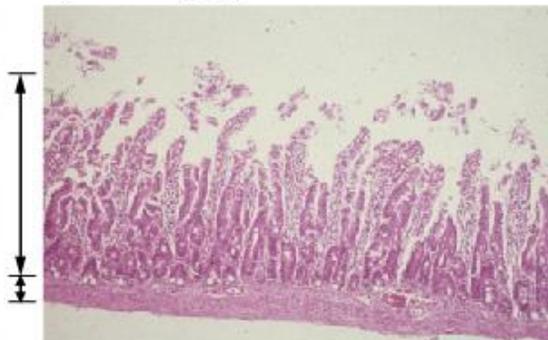
⊖腸管粘膜の萎縮を防止する

◆固形飼料とTPN管理ラットの小腸組織

像 A) 固形飼料



B) TPN14日間



【大熊利忠：経腸栄養の適応・利点と選択基準。「NST完全ガイド 改訂版」(東口高志 編)P35 照
固形飼料ラットに比べて、TPNラットでは絨毛の丈が短く、細く、筋層も薄くなっており、全体的に著明に萎縮しています。

⊖免疫能を維持する

腸管には全身の免疫組織の50～80%が存在しています。消化管内に栄養が投与されることにより腸管の免疫機能が維持されるため、経腸栄養は静脈栄養と比べて感染性合併症の頻度が低いといわれています。

必要以上に絶食期間が長くなっていることはありませんか？

イレウスなど消化管に障害がある場合を除き、消化管機能が保たれていれば、**経腸(経口)栄養を第一に選択し、可能な限り腸管を使いましょう。**



侵襲後でも極力早期から経腸栄養を開始することが推奨されています。

●日本版重症患者の栄養療法ガイドラインより

経腸栄養の開始時期はいつが望ましいか？

・・・重症病態に対する治療を開始した後、可及的に**24時間以内、遅くとも48時間以内**に経腸栄養を開始することを推奨する。

当院でもHCU入院患者の「**早期経腸栄養プロトコル**」を作成し、昨年12月から使用開始しています。低速で投与を開始するため、経腸栄養ポンプを1台導入しています。

経腸栄養ポンプの使用は**下痢や嘔吐、逆流による誤嚥の防止**にも有効です。